





国土環境モニタリングの実態

モニタリングサイト1000

動植物の生育生息状況などを100年にわたって同じ方法で調べ続けるサイトを全国に1000ヶ所程度設置し日本の自然環境の変化をとらえることを目的とした「第3次生物多様性国家戦略」にも位置づけられている**国土環境モニタリングプロジェクト**

	専門家	大学 研究機関	博物館	NPO ボランティア
調査精度				
コスト	×(委託)	×(演習)	×(委託)	
市民への 普及効果	×			
広域調査 の展開 の実現性		×	×	

高精度が求められる調査 = 専門家・大学研究機関・博物館中心
環境指標生物を対象とした = NPOボランティア中心

研究概要

研究の目的(検証事項)

鳥取県奥大山地域を中心として展開中の
「視覚障害者によるバードリスニング」

テーマ1: 国土環境モニタリング調査の一環として位置づけることができるか?

テーマ2: 「環境と福祉を統合する持続可能な地域づくり」の新しいアプローチとして位置づけることができるか?

春季プロジェクト概要(1)

日時: 2009年5月31日
(10:00 ~ 12:00)

参加者

- ・視覚障害者(16名)
- ・わらび会
(12名: 点訳朗読ボランティア)
- ・日本野鳥の会鳥取県支部
(5名)
- ・グラウンドワーク大山・蒜山
(5名)



春季プロジェクト概要(2)

プロジェクトの進め方

- ・5班構成
(オオルリ・カッコウ・キビタキ・アオゲラ・ミソサザイ)
- ・視覚障害者とわらび会
(1:1 ~ 1:2) で2 ~ 3ペア
- + 日本野鳥の会鳥取県支部(1名)
- + グラウンドワーク大山・蒜山(1名)
- ・1周約1.3kmの
自然学習散策路を散策



春季プロジェクト概要(3)

体験調査

- ・出発前に野鳥の声を紹介した研修を実施
- ・野鳥の声をペア毎に確認・記録
- ・木肌の違いを体感するプログラムを並行実施



調査結果

春季プロジェクト 調査結果(1)

体験調査の調査結果

12ペアで合計14種の鳥類を確認・記録

オオルリ・クロツグミ・カッコウ・
センダイムシクイ・ホトギス・
ヤマガラ・シジュウカラ・ムクドリ・
ゴジュウカラ・モズ・ホオジロ・
キセキレイ・イカル・ヒヨドリ・
ミソサザイ・ウグイス・ヤブサメ・
カワガラス・イカル・エナガ・
アオゲラ・キビタキ・メジロ・
カワガラス

(日本野鳥の会鳥取県支部(5名)で
24種を記録。赤字は参加者の記録。)



オオルリ



キビタキ



アオゲラ



カッコウ

春季プロジェクト 調査結果(2)

感想コメント: 視覚障害者 + 点訳朗読ボランティア

「充実感を持った」

「心の癒しの時間を楽しめた」

「今後も同様な企画があれば参加したい」



視覚障害者による 国土環境モニタリングの可能性

僅かな事前研修で14種の鳥類の判定ができた
視覚障害者による鳥類調査に関する調査精度？
という点では問題ないと評価できる。

環境モニタリング調査手法の整備(案)

- ・環境指標になりうる種(種群)の抽出(事前研修)
- ・一定時間を対象とした定点調査の実施
- ・調査データの相互補完体制整備による精度の担保

視覚障害者による 国土環境モニタリングの効果

・視覚障害者のみならず、サポーターも本プロジェクトを評価
「視覚障害者 = 国土環境モニタリングの担い手」
スキルを活かせる場づくり = 誰もが居場所のある地域づくり

環境モニタリング調査体制の整備(案)

- ・国土環境モニタリングの担い手になりうる人材の抽出
- ・担い手ごとの対応可能な調査項目のマッチング
- ・福祉事業と環境保全事業の統合

まとめ

まとめ

鳥取県奥大山地域を中心として展開中の
「視覚障害者によるバードリスニング」

テーマ1: 国土環境モニタリング調査の一環として位置づけることは可能 (調査マニュアルの整備 + 調査データの分析手法の開発)

テーマ2: 「環境と福祉を統合する持続可能な地域づくり」の新しいアプローチの1つとして評価できる (多様な分野の研究者・行政担当者による 新しいしくみづくりが課題)

社会福祉・環境保全の統合に向けて

